

新たな活動ビジョン策定に向けた検討

1. 新たな活動ビジョン

1) ミッション

「みんなの“My”博物館^{ミュージアム}－地域の歴史・自然・文化を今と未来に活かす－」

博物館業務と文化財保護業務を行う当館独自の活動ビジョン

(令和8年度～17年度〔開館28～37周年〕における活動を想定)

- ・地域の歴史・自然・文化を守り、今と未来に活かすための事業展開を行う。
- ・利用者個人とのかかわりを大切にし、1人1人が「自分の」博物館と思えるような、親しみのある博物館を目指す。

2) 活動方針：「飛鳥山イズム」の継承と発展

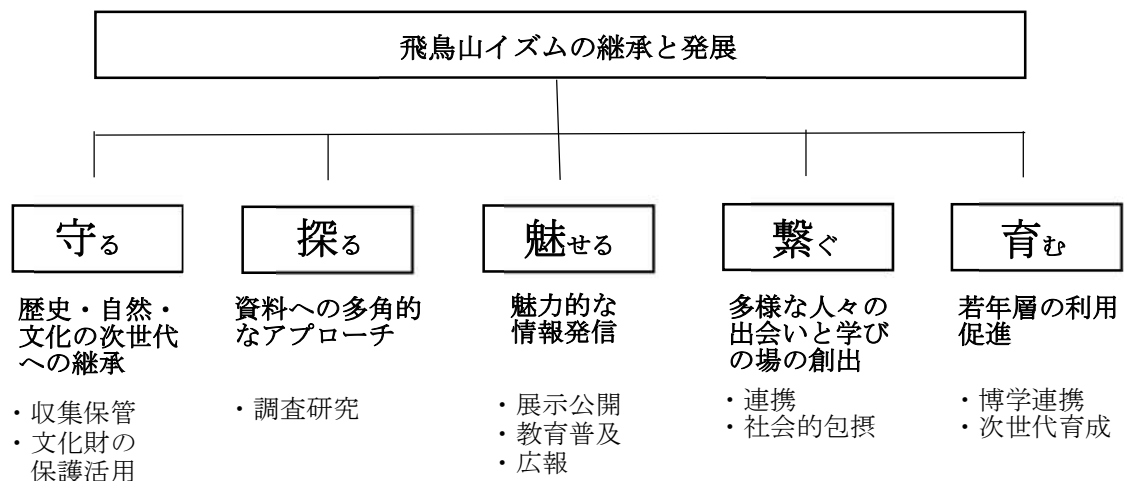
「飛鳥山イズム」＝開館以来、培われてきた活動姿勢

- ・時代を読み、新しいことに積極的に挑戦するチャレンジ精神
- ・普及事業を重視した博物館活動

⇒5つの活動の柱における重点目標の達成によって、「博物館」としての使命を果たす。

<5つの活動の柱>

- ▶ 守る
- ▶ 探る
- ▶ 魅せる
- ▶ 繋ぐ
- ▶ 育む



北区飛鳥山博物館の活動の柱

3) 活動の柱と重点目標

| 活動の柱 | | 重点目標 | |
|------|-------------------|--------------|--|
| 守る | 歴史・自然・文化の次世代への継承 | 収集保管 | ・収蔵状況の見直し ・収蔵資料のデジタル化 ・近現代資料の収集 |
| | | 文化財の保護活用 | ・指定文化財等の保護活用 ・文化財の調査・記録・指導助言の拡充 ・文化財公開事業の推進 ・無形民俗文化財の継承 |
| 探る | 資料への多角的なアプローチ | 調査研究 | ・常設展示リニューアルの予備調査 |
| 魅せる | 魅力的な情報発信 | 展示公開 教育普及 | ・より新鮮で満足度の高い事業、時代性を意識した展示の開催 |
| | | 広報 | ・デジタル化の推進 ・地域ブランド力向上への貢献 |
| 繋ぐ | 多様な人々の出会いと学びの場の創出 | 連携 | ・ゆるやかなコミュニティの構築 ・組織内外の諸機関や団体との連携強化 |
| | | 社会的包摂 | ・多言語対応の充実 ・障がい者対応の強化 |
| 育む | 若年層の利用促進 | 博学連携 | ・区内学校の利用促進 ・学校現場との連携強化 |
| | | 次世代育成 | ・博物館における社会経験の提供 ・課外活動の場としての利用促進 ・育ちの場の創出 |

「5つの活動の柱」と重点目標

2. 具体的な活動内容の検討

令和6年度第2回：「繋ぐ」「育む」

(「守る」「探る」「魅せる」は、次回[令和7年度第1回]を予定)

1) 繋ぐ：多様な人々の出会いと学びの場の創出

①連携

- ・ゆるやかなコミュニティの構築

【現状】「あすかやまダイレクトメールメンバーの会」の設置および運営(友の会、ボランティア等団体の設置はない)

【目標】登録・選択制ボランティア制度やファンクラブ(仮称)の検討

【懸案】事務局の体制づくり

- ・組織内外の諸機関や団体との連携強化

【現状】大学等の教育機関との連携

【目標】他領域との連携・関係強化

【懸案】連携先の模索

②社会的包摂

- ・多言語対応の充実

【現状】常設展示 外国語版リーフレットの配布（英語／中国語〔簡体字・繁体字〕／韓国語／フランス語）、常設展示 音声ガイドの貸し出し（英語／中国語／韓国語）

【目標】館内リニューアルに向けた多言語対応の再検討

【懸案】対応範囲の設定、ツールの選択

- ・障がい者対応の強化

【現状】施設のバリアフリー化の順次整備、団体見学の個別対応

【目標】個人利用にも対応したコンテンツ作り

【懸案】将来の大規模改修を視野に入れた改善点の洗い出し

2) 育む：若年層の利用促進

①博学連携

- ・区内学校の利用促進

【現状】団体見学の受け入れや出張授業の実施、資料の貸し出しの実施（団体見学は区外からの利用が多い）

【目標】北区内小中学校の利用率向上（資料貸出キットの再検討、さまざまな教育機関や団体等の受け入れ態勢の強化など）

【懸案】周知、大規模校への対応（施設面、人員体制面）

- ・学校現場との連携強化

【現状】個別対応による出張授業や資料貸し出しの実施

【目標】「博学連携委員会」に代わる新たな連携方法の構築、「先生のためのオープンミュージアム」の継続開催

【懸案】周知、人員体制

②次世代育成

- ・博物館における社会経験の提供

【現状】博物館実習やインターン、学芸員体験の受け入れの実施

【目標】博物館実習やインターンの継続的受け入れ、進路選択（高校生・大学生等）のサポート体制の構築

【懸案】人員体制

- ・課外活動の場としての利用促進

【現状】小中学生向け体験講座の開催、「北区ジュニア考古学クラブ」の実施

【目標】自然や地理など、さまざまなジャンルにおける活動の場の提供

【懸案】人員体制

- ・育ちの場の創出

【現状】高齢者を中心とする利用（ただし入館者に占める親子連れの利用率は高い）

【目標】親子連れの、本来的な「博物館」利用の促進

【懸案】親子連れも楽しめる空間やコンテンツ作り